

(((((技術・行政情報)))))

だったからである。しかし水分が多く火に対して高感度であるという性質は水素添加の過程を容易にする。

現在の技術をもってすれば経済的に採掘可能な埋蔵量が430億トンを超える。そのほとんどは地表から30メートル以内の浅いところに埋まっている。

灰分が少ないので、最も純粋な化石燃料と考えている人々もいる。また硫黄分や窒素分が少ないので酸性雨を降らす原因にはなりにくい。

液化技術は炭素、水素、酸素、窒素、硫黄原子から

なる重縮合物である石炭の低分子化を目的としている。水素添加反応として知られる過程において一定の圧力や高温下で重い分子を軽い分子にするための水素添加反応を行えば水素の割合が多い油液が得られる。こうして得た人工原油を精製してディーゼル油やガソリンなどの燃料を生産することができる。

商業生産段階に入った場合の製品の分配及びオーストラリア側の株式持分については、両国間でこれから話し合いが行われる。

(情報提供：オーストラリア大使館 東京)

次号「エネルギー・資源」9月号(通巻39号)目次(刊行：61/9/5)

〔論 説〕

第8回世界エネルギーエコノミスト協会年次大会に参加して

〔展 望〕

省エネルギー方式人工光植物栽培……………(財)日本エネルギー経済研究所研究主幹 松井 賢一

……………三菱電機(株)応用機器研究所 中山 繁樹

〔解 説〕

構造変化進む産業用エネルギー消費……………(財)日本エネルギー経済研究所 木船 久雄

地域冷暖房とその将来……………早稲田大学建築学科教授 尾島 俊雄

〔特 集〕

エネルギーの複合利用技術

1. コージェネレーションシステムの現状と展望

……………(財)日本システム開発研究所常務理事 垣田 行雄

2. コンビナートにおけるエネルギー複合体……………大阪大学工学部電気工学科教授 鈴木 胖

3. 石炭ガス化と複合エネルギーシステム……………(財)石炭技術研究所理事 穂積 重成

4. 内燃機関によるコージェネレーション(冷熱発生も含む)……………フォルム設計(株)会長 早川 一也

5. 燃料電池によるコージェネレーション

……………東京ガス(株)エネルギー変換プロジェクトチーム課長 菊地 謙一

6. 都市ゴミエネルギーの有効利用……………東京都立大学工学部教授 平山 直道

7. メタン発酵技術とエネルギーの有効利用……………日立造船(株)原子力事業部事業部長 安藤 見

〔シリーズ特集〕

明日を支える資源 (12)

ガラス用珪砂の現状と将来……………東海工業(株)参与 遠藤 孝恵

〔報 文〕

〔技術報告〕

粉体の熱伝導I)——二, 三の酸化物粉体——……………名古屋工業技術試験所課長 小坂 岑雄

……………専修大学経営学部教授 斎藤 雄志

……………新技術開発事業団・(株)本田技術研究所

……………(株)タクマ 環境技術部部长 岩崎 飯己

〔技術・行政情報〕

〔会報〕